生垣実態調査（その２）

竹　下　　宏

生垣の樹種及び使用形態について，58年度は広島市内から３地区を選び調査を行った。今回さらに，市内９地区について調査を行ったので報告する。

調査方法

調査項目：１．生垣に用いられている樹種，２．生垣の高さ，３．樹木の組合わせ，４．仕立て方，５．併用垣の種類

調査地区及び調査日：表１に示す。

結　果

１．生垣に用いられている樹種

各地区で使用されている樹種数と樹種の使用率を図１に示す。使用樹種については庚午南が最も多く，46種にも及んだ。次いで藤垂園の30種，己斐中，東霞町の29，28種の順であった。井口鈴が台，古江新町では14，16種と使用樹種は少かった。各地区での樹種の使用率をみると，６地区でヒイラギモクセイが最も多く使用されており，特に，己斐中，古江新町，井口鈴が台においては30％前後の高い使用率であった。カイズカイブキは，井口鈴が台，毘沙門台団地でそれぞれ，27.1％，25.0％と高い使用率であったが，己斐中，庚午南，古江新町では比較的低い使用率であった。キンモクセイについては，舟入地区で19.3％と高く己斐中で6.3％と低かった外は，各地区を通して10％前後の比較的一定した使用率を保っていた。アラカシについては宇品御幸，舟入，古江新町で13％前後の使用率である外はあまり用いられていなかった。

２．生垣の高さ

各地区で使用されている樹種全体及びそれぞれの主要樹種の平均高を図２に示す。宇品御幸，舟入地区では，全体の平均高は，それぞれ2.83ｍ，2.60ｍと高いが，標準偏差が大きく変動が大きいことを示している。これに対し，毘沙門台，井口鈴が台の２つの団地では，それぞれ1.59ｍ，1.73ｍの平均高で，高さの変動の幅も小さかった。

樹種ごとで使用されている高さをみると，アラカシは，宇品御幸，舟入地区，古江新町でよく使用されており，平均高もそれぞれ4.5ｍ，3.53ｍ，3.06ｍと高かった。カイズカイブキについては宇品御幸，己斐中で平均値４ｍ前後と高いが，その他の地区については２ｍ前後の高さで使用されているものが多い。キンモクセイについては己斐中で平均値3.45ｍと高い値になった外は，２ｍ前後での使用が多い。ヒイラギモクセイは各地区を通して２ｍ前後で使用されていた。その他，カナメモチは井口鈴が台，毘沙門台でよく使用されているが1.5ｍ程度の高さで使用されていた。

表１　調査地区及び調査日

調査地区	調査日	調査戸数	地区概要
南区宇品御幸四丁目	昭和59年１月30日	15	軍用地跡に戦後間もなく住宅が建てられた。
南区東霞町	昭和58年12月20日	41	昭和40年代に住宅が建て並ぶ
西区舟入地区（舟入本町，舟入幸町，西川口町）	昭和58年12月21日	38	戦後から昭和40年頃までに現在の町並ができあがった。
西区己斐中一丁目，二丁目	昭和59年１月30日	33	昭和30～40年代に住宅が建てられた。
西区庚午南一丁目	昭和59年２月28日	57	昭和23～28年に市営住宅として建てられ，その後民間に分譲された住宅が主体。
西区古江新町	昭和58年12月20日	50	昭和15年頃から耕地整理が行われ，36年頃までに住宅が建つ
西区井口鈴が台２丁目，３丁目	昭和58年12月21日	36	昭和36年から造成が始められ，39年には，ほぼ住宅が建ち終る。
安佐南区安古市町毘沙門台団地	昭和58年12月20日	74	昭和46年から造成され，50年に住宅地としてほぼ完成
佐伯区五日市町藤垂園	昭和58年２月28日	51	昭和29～30年に住宅が建てられ，34年頃ほぼ完成

宇品御幸（樹種数24）	アラカシ 13.2%	カイズカイブキ 13.2	ヒイラギモクセイ 10.5	キンモクセイ 10.5	その他 47.4					
東霞町（〃 28）	キンモクセイ 13.3%	ヒイラギモクセイ 12.0	カイズカイブキ 12.0	サザンカ 6.7	アラカシ 5.3	ナンテン 5.3	その他 45.4			
舟入（〃 20）	ヒイラギモクセイ 22.8%	キンモクセイ 19.3	アラカシ 14.0	カイズカイブキ 7.0	マメツゲ 5.3	その他 31.6				
己斐中（〃 29）	ヒイラギモクセイ 31.7%	カイズカイブキ 7.9	マサキ 6.3	キンモクセイ 6.3	イヌマキ 4.8	その他 43.0				
庚午南（〃 46）	ヒイラギモクセイ 14.9%	キンモクセイ 9.5	ハクチョウゲ 8.1	マサキ 6.1	カイズカイブキ 5.4	その他 56.0				
古江新町（〃 16）	ヒイラギモクセイ 31.7%	カイズカイブキ 17.5	アラカシ 12.7	タケ 9.5	キンモクセイ 4.8	その他 28.6				
井口鈴が台（〃 14）	ヒイラギモクセイ 29.2%	カイズカイブキ 27.1	キンモクセイ 12.5	カナメモチ 6.3	その他 24.9					
安古市町毘沙門台（〃 24）	カイズカイブキ 25.0%	ヒイラギモクセイ 19.4	キンモクセイ 13.0	カナメモチ 11.1	サザンカ 7.4	その他 24.1				
五日市藤垂園（〃 30）	ヒイラギモクセイ 27.4%	カイズカイブキ 18.9	キンモクセイ 10.5	その他 43.2						

図１　各地区における樹種の使用ひん度

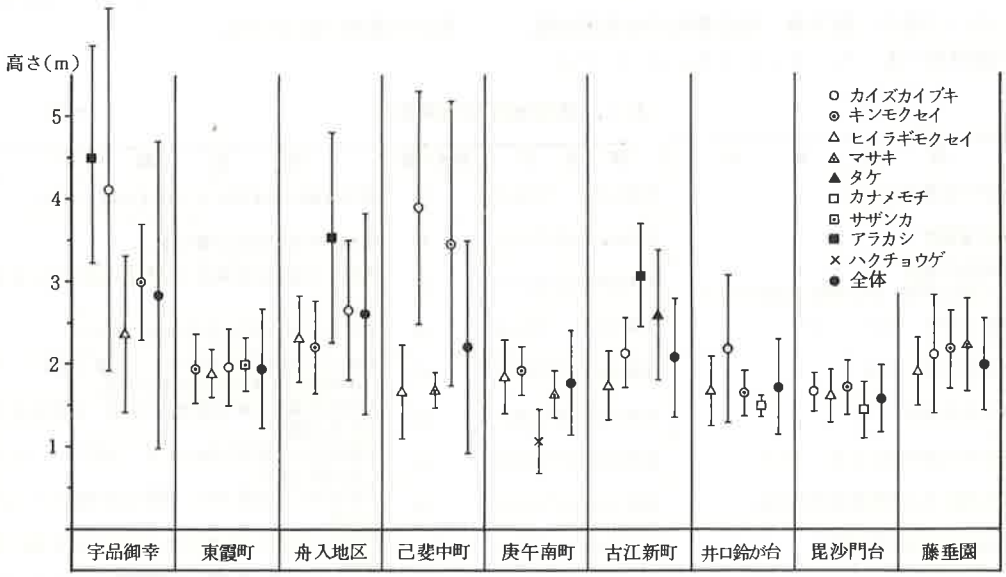

図２　主要樹種の平均高（縦線は標準偏差を示す。）

3. 樹木の組合わせ

同一樹種だけを用いて生垣をつくっているか（単植生垣），数種を組合わせて生垣をつくっているか（混植生垣）を図3に示す。古江新町，井口鈴が台では単植生垣の使用率がそれぞれ89.1%，88.9%と高く，混植生垣の使用率が高いのは庚午南の41.4%であった。

4. 樹木の仕立て方

生垣を刈込んで仕立ているか（刈込型生垣），自然樹形風仕立か（自然型生垣）を図4に示す。刈込型生垣は藤垂園，古江新町で94.9%，92.7%と高かった。自然型生垣が多いのは宇品御幸の25.0%，庚午南の19.0%，東霞町の16.3%であった。

5. 併用垣の使用率

生垣に併用されているもので特にブロックベイ，フェンス，石組についての使用率を図5に示す。ブロックベイについては舟入地区で86.9%と高く，井口鈴が台の71.0%，古江新町の69.1%の順であった。フェンスは毘沙門台で34.8%と高い併用率であった外は，低い併用率であった。石組については己斐中の17.5%，井口鈴が台の15.8%が高かった。また，庚午南では併用垣なしが51.6%と過半数を越え，己斐中，藤垂園で27.5%，26.2%と比較的高かった。これに対し，舟入地区，井口鈴が台ではどの生垣もブロックベイ，フェンス，石組のいずれかと併用されていた。

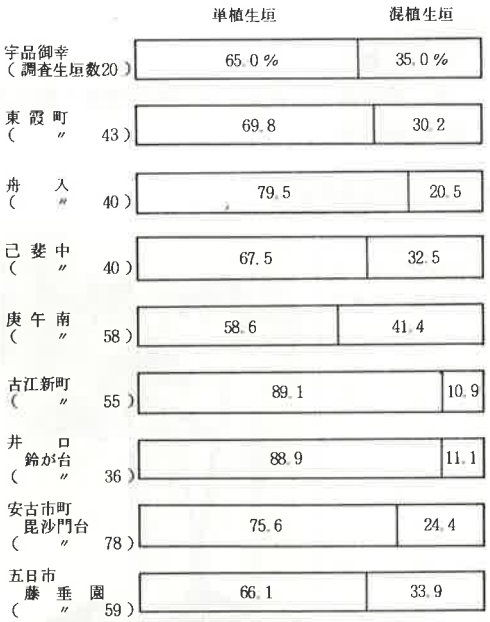

図3　樹木の組合わせ

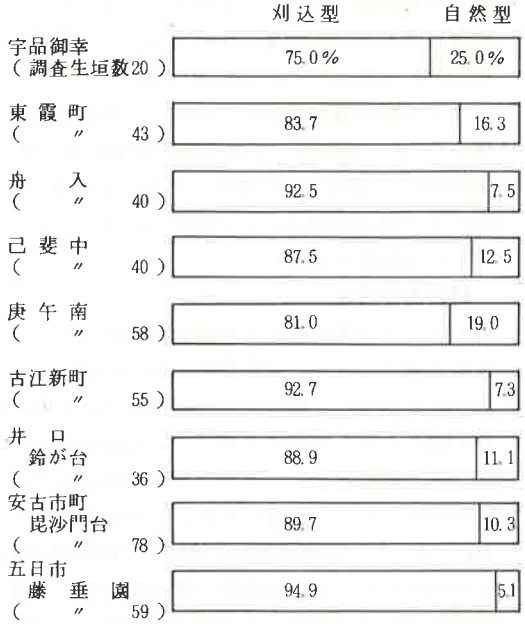

図4　樹木の仕立て方

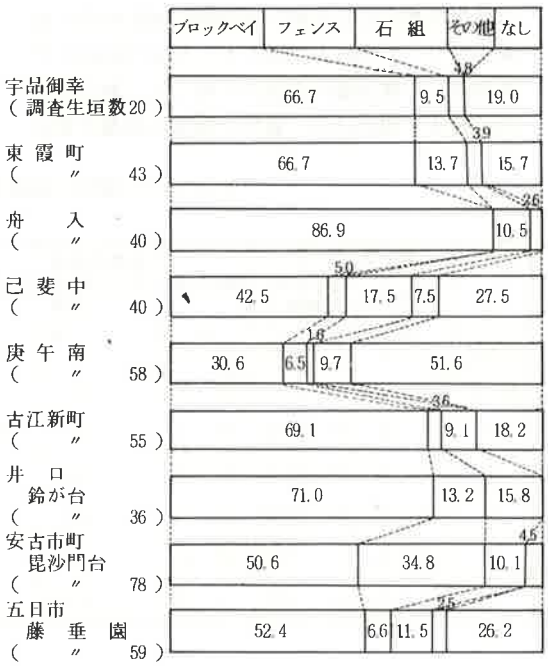

図5　併用垣の使用率